

## 序

このたび「リンパ浮腫診療ガイドライン 2018 年版」として、第 3 版を出版する運びとなり、今回も編纂に携われたことを大変光栄に存じます。2008 年度にリンパ浮腫指導管理料の新設と弾性着衣・弾性包帯が療養費扱いとして保険収載された「リンパ浮腫元年」以来、がん治療の発展の陰で長い間取り残されていたリンパ浮腫診療が、ようやく日の目をみるようになりました。やがて、厚生労働省の委託事業であるがんリハビリテーション研修の一環として発足した「リンパ浮腫研修」(2013 年より「新リンパ浮腫研修」)が始動し、今や千数百名の修了者を数えるに至っております。

2016 年度には、「リンパ浮腫複合的治療料」が新設されると同時に、医師、看護師、理学療法士に加え新たに作業療法士が対象職種となり、ようやく包括的なリンパ浮腫診療をチーム医療として医療施設で実施する基盤が整いました。「リンパ浮腫複合的治療料に関する算定基準」のなかで、「新リンパ浮腫研修」のカリキュラムは「専門的なリンパ浮腫研修に関する教育要綱」として「33 時間以上の座学」の基準となっていることは周知のとおりであります。

臨床現場からはなお、重症度分類、算定料、回数、適応などに対してさらなる改定を求める声も聞こえてまいります。まずは新たに使えるようになった「道具」でいかに効果・効率的な診療を実践するかを創意工夫することが、我々医療者に与えられた喫緊の課題であると確信しております。この意識を共有し、解決を探る切磋琢磨の場として、2016 年度に日本リンパ浮腫研究会を母体に日本リンパ浮腫学会が設立されたのも時代の必然でありましょう。同研究会が担っていたガイドライン事業を継承する使命を肝に銘じ、学会をあげて日本のリンパ浮腫診療の標準化を全うしてまいります。

第 3 版は 21 項目の CQ のなかに、リンパ浮腫の発症・増悪因子もしっかりと拾い上げ、より日常臨床に沿ったコンテンツを厳選したと自負しております。システムティック・レビューを通じて、発症因子や効果的な治療に関する科学的根拠はさらに明確化していることがみえてまいります。経験のみに基づいた古き理念にとらわれることなく、本書がエビデンスに基づいたリンパ浮腫診療の標準化に少しでも役立つことを、委員一同切に望んでおります。

2018年2月

日本リンパ浮腫学会ガイドライン委員会  
委員長 北村 薫